

国語科学習指導案（Ⅱ限）

授業者：石井希代子

クラス：5年D組 41名（男子21名、女子20名）

場 所：5年D組 HR教室

1. 単元 「こころ」を読む －「負い目」の問題をめぐって－
2. 単元のねらい

高校2年生の定番教材ともいえる夏目漱石の「こころ」という作品は、親友「K」の自殺という取り返しのつかない事態によって、彼を裏切った負い目を生涯抱え続けた「先生」の姿を「先生」を慕う「私」の視点を通して描いた作品であるが、教科書に掲載されている「先生と遺書」は、「まじめに人生から教訓を受けたいのです」と迫った「私」へ返答として「先生」が自分の過去を書き残したものとして描かれている。

その中で「先生」は自分の過去を偽り無く書き残しておくことは、「人間を知る上において、貴方にとっても、外の人にとっても、徒労ではなかるうと思います」と語っている。また、学習指導要領（現代文）には「様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。」が指導内容として明示されている。

「こころ」を巡っては様々な議論・解釈が存在し、いろいろな実践がなされているが、今回の実践では、過去の出来事に対する罪の意識から逃れられず、死んだつもりで生きてきた「先生」の生き方を通して「人間」についての考えを深めることを目指したい。具体的には、「K」という「死者に対する負い目」の問題、そして「奥さん（お嬢さん）」と「私」に対する「生きている人間同士の関係の中で生じる負い目」の問題を中心に、「他者」との関わりにおいて生じる様々な「負い目」に対してどのように向き合って生きていくのかを考えさせることを通して「人間」という存在、「心」のありようについて考えさせたい。

3. 単元目標

- ①「負い目」という問題から「人間」の「心」のありようや生き方についての考えを深める。
- ②比喩的表現や暗示的表現に注意しながら、多くの情報から必要な情報を筋道立てて読み取る。
- ③自分の、あるいは他者の考えに対し、その考えがどのような前提の元に生成されているのかを読み取ろうとする姿勢を養う。

4. 単元計画（全8時間）

- | | |
|------------|---|
| 第1次 | 夏休み中に「こころ」全文を通読（課題プリントの提出によって確認） |
| 第2次（4.5時間） | 「先生」の生き方を「K」の自殺との関わりからとらえる。 |
| 第3次（1.5時間） | 「先生」の生き方を「私」「静」との関係の中からとらえる。 |
| 第4次（2時間） | 「他者」との関わりの中で生じる「負い目」という問題に対し、どのように向き合い、生きていけばよいのか、「先生」の過去そして生き方から考え得たことを記述し、交換する。※ 本時 |

5. 単元の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 書く能力	エ 読む能力
単元評価の規準	・与えられた課題に対して積極的に取り組み、自分の考えを深めようとしている。	・与えられた課題に対して自分の考えを筋道立てて述べたり、相手の考えを的確に聞き取っている。	・論理的な構成を工夫し、自分の考えを読み手にわかりやすい文章で示している。	・文章の内容を叙述に従って的確に読み取っている。
学習体の活動の可動性	①「負い目」という問題から「人間」の「心」のありようや生き方について自分の考えを深めようとしている。 ②作文や発表など、自分の考えを表現する活動に積極的に取り組んでいる。	①何に対してどのように考えたのか、またなぜそのように考えたのか論点を明確に筋道立てて自分の考えを示している。 ②各自の意見に対し、相違点やその相違が起こった要因を考えながら聞いている。	①自分自身の経験と照らし合わせながら、課題に対する自分の考えを適切に表現している。 ②事例が適切であるか、論が飛躍していないか推敲して、読み手にわかりやすい表現を工夫している。	①多くの文字情報から必要な情報を筋道立てて読み取る。 ②「先生」がどのようにとらえたのかということと、実際どうであったのかを区別しながら読み取る。 ③比喩的な表現、暗示的な表現の理解。

6. 本時のねらい

- ①グループ内で自分の考えを筋道立てて述べる。
- ②各自の意見を論点を明確にしながら整理する。

7. 本時の授業展開過程

時間	提示資料	学習内容及び活動	指導上の留意点・評価
5 20 40 48	・本時の活動を示したプリント ・前時の作文をまとめたプリント ・報告書プリント	(導入) 本時の活動内容について確認する。 (展開Ⅰ) 前時に生徒たちが書いた文章をピックアップしたものを配布し、各自で自分の考えと比べ合わせながら読む。 (展開Ⅱ) グループ内で一人ずつ自分の考えたことを述べあい、課題に対する考えを深める。 (展開Ⅲ) 話し合った内容を報告書にまとめる。(時間があれば、発表してもらう) (終結) 次時その報告書を全体に返していくことでまとめとすることを告げる。	・活動の手順・時間配分 注意点を示したプリントを配布し、確認する。 ・評価は行動の観察・報告書の確認によって行う。